



157

この記事がすごい！ 毎日新聞今週のこだわり4本

2023年5月7日号

編集／毎日新聞社カスタマーリレーション本部



迫る

「立ち上がれシニア」残間里江子さんの思い

7日(日)=1、3面

プロデューサーとして活躍している残間里江子さん(73)＝写真＝の社会人第一歩は、地方局のアナウンサーでした。でも、約2年半たった時に「新しい世界を目指したい」との気持ちを抑えきれず、

退職しました。再就職の活動中は「1日最低10人の新しい人と出会う」という目標を立てました。その後、雑誌記者、編集者を経て、プロデューサーとして歩み始めたのです。山口百恵さんの自叙

伝「蒼い時」をプロデュースしたことで、自身の名も広く名前を知られるようになりました。70歳を過ぎた今、シニア世代の行方が気になっています。シニアよ、立ち上がれ、と訴える思いに迫ります。

🔍 コロナ5類移行へ

8日(月)=1、2、3面

3年にわたるコロナ禍は、社会に大きな影響を与えました。デジタル化が進展する一方、少子化が加速し、国内経済は大きなダメージを受けました。
法律上の位置づけ

がインフルエンザと同じ5類に変わってもウイルスが消えたわけではありません。入院や外来患者を受け入れる医療体制には課題が残されています。



記者会見で新型コロナウイルスの5類移行について説明する加藤勝信厚生労働相＝東京都千代田区で2023年4月27日



口増加が続きます。国連は世界の人口について、2080年代に104億人とピークに達した後、いずれは減少に転じると予想しています。中国やインド、東南アジアも例外ではありません。しかしアフリカは今後も人口増加が続きます。



シリーズ「世界人口考」中国のいま

9日(火)＝1、2、3面

人口動態の変動は、各国の社会や国際関係のあり方をどのように変えるのでしょうか。世界各地から特派員が報告するシリーズ「世界人口考」の第1回は、労働人口の減少が急速に進む中国の現場に記者が入りました。

特集 ワイド ニッポンの「脱少子化論」

9日(火)＝夕刊特集ワイド

日本の人口減少に、歯止めがかかりません。2070年の国内人口は、今より3割減り、8700万人になるとの推計が公表されました。岸田文雄政権は「次元の異なる少子化対策」を掲

げますが、財源は不透明なままです。少子化を食い止めるには何が必要でしょうか。柴田悠京大教授(社会学)と、3人の子供の育児休暇を取得したという大手IT企

業サイボウズの青野慶久社長＝写真＝とに聞きました。



毎日新聞×TBSラジオの「ここがモヤモヤする日本の結婚」が11日に開催されます。結婚とは……とあまり深く考えることなく1児のパパの日々を送っている私ですが、周囲の結婚観を聞いたらいよいよオンラインイベントに寄せられた皆さんのモヤモヤを聞かせていただき、結婚生活9年目の今こそ、きちんと考えてみようと思います！
(小林知史)



毎日新聞